

# 『Mind Charging』

第 195 回 発行：入試広報室 発行日：令和 3 年 1 月 23 日

## 映画：『えんとつ町のプペル』の名言



たとえ一人になっても、信じて、それでも上を見続けていたらよお、その時お前と一緒に上を見してくれる  
同士が現れる。友達だ！

動画共有サービスなどでもこの映画の広告が頻繁に流れますが、その時に使われているシーンのひとつに今回の言葉が使われています。主人公であるルビッチの父ブルーノが、ルビッチに伝えた言葉です。

自分の目標や夢などに向かって取り組み続けることは大変重要なことだと思いますが、取り組んでいく中で、『達成できない(かもしれない)』と諦めてしまうことがあります。その原因の一つがこの映画の主題歌にある『夢を持てば笑われて 声を上げれば叩かれる』という歌詞にあるような、他者からの助言(批判)や自分の中の不安であると考えます。大きな目標を達成するためにはそういった困難な状況を乗り越え、やり切るしかないと感じていながらも志半ばで諦めてしまった経験もあると思います。

私自身、これまで“やり切った！”と胸を張って言えることは少ないですが、これまでの人生を振り返って唯一と言っていいくらい“夢を叶えた！”というものについては、困難に負けずに続けたからこそだと思っています。そして、心が折れそうになっていた時に今回の言葉にあるように『同士』の存在がありました。“苦しいのは自分だけじゃない”と思わせてくれる同士の存在は、自分にとって非常に大きなものであり勇気を与えてくれました。

他にも達成には至らなかったものの、やり切ったと感じられるものもあります。現在のように、ただでさえ先が見えなくて不安になりがちな時も私たちには『仲間』がいます。目標達成に向けた情熱を発揮することは自粛しないでください！“今だからこそ”できることを精一杯やり続けることによって良い意味で周りを巻き込み、多くの同士と共に素晴らしい達成を共有しましょう！

(編集委員：入試広報室 鈴木)

『えんとつ町のプペル』(えんとつまちのプペル、英題：POUPELLE OF CHIMNEY TOWN)は、日本の絵本。西野亮廣が脚本&監督となり完全分業制で制作した(幻冬舎 2016 年 10 月 21 日)。メインイラストレーターは六七賢。2019 年の時点では累計発行部数 40 万部。2020 年 1 月には舞台化され、2020 年 12 月 25 日アニメ映画版が公開。(Wikipedia 参照)